

福岡女子大学

FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム
イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム

平成27年度 **成果報告書**

Contents

- 1 (1)「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」の開講、プログラム実施
 - ①出願・受講に関して
 - ②開講式・オリエンテーション
 - ③モジュール1「創造性を磨く」
 - ④モジュール2「リーダーシップを発揮する」
 - ⑤モジュール3「イノベーションを実践する」
 - ⑥授業評価アンケート
- 13 (2)カリキュラム及び教育体制の確立
 - ①産業界との「協議の場」
 - ②プログラム検討会議
- 16 (3)ファカルティ・デベロップメントの実施
- 18 (4)プログラムの周知・広報
- 20 (5)出願状況(平成28年度)

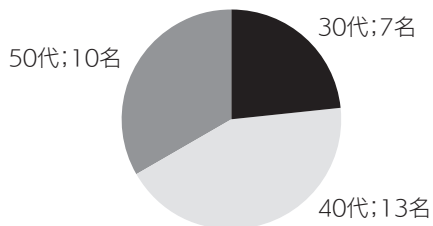
(1)「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」の開講、プログラム実施

①出願・受講に関して

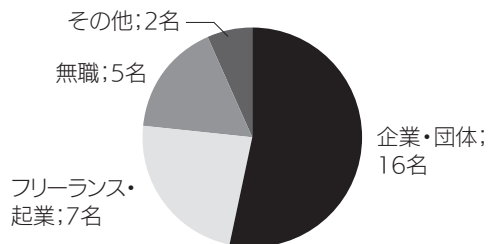
	出願期間	面接	合格発表	出願数	合格数
第1期	平成27年3月 2日～3月14日	3月21日	3月25日	23	21
第2期	平成27年3月23日～4月 4日	4月11日	4月15日	9	9

受講生:30名

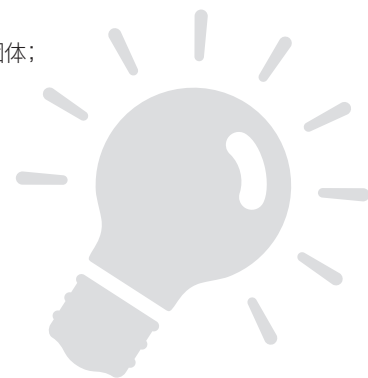
〈受講生年齢割合〉



〈受講生属性割合〉



- ※「その他」は主に地域活動(ボランティア等)に従事しているケース
- ※福岡女子大学卒業生 4名
- ※企業派遣 3社5名



②開講式・オリエンテーション

平成27年5月9日(土) 開講式、オリエンテーションを実施。

学習の進め方等のガイダンスに加え、「学び直し」をテーマにした自己紹介を兼ねたワークショップ 男女共同参画に関する特別講義を実施。

開講挨拶 福岡女子大学学長 梶山 千里

ご挨拶 福岡県新社会推進部部长 大曲 昭恵氏

特別講義 「男女共同参画」 福岡女子大学国際文理学部教授 野依 智子

オリエンテーション ワークショップ「学び直しとは？」

学内見学ツアー

e-learning システム操作説明



③モジュール1「創造性を磨く」

受講生:28名

平成27年5月16日開講

講師:田村 大(株式会社リ・パブリック共同代表 イノベーションスタジオ福岡ディレクター)

■授業内容

	対面授業	オンライン課題
Day1 5月16日	<ul style="list-style-type: none"> ●チームビルディング ●デザインとイノベーションに関するレクチャー ●URの今(レクチャー) ●リサーチの進め方 ●課題の設定 ●リサーチの準備 	<ul style="list-style-type: none"> ●インタビューの実施とレポート作成
Day2 6月6日	<ul style="list-style-type: none"> ●リサーチ成果の共有 ●新たなインサイトの抽出 ●インサイト間の関係発見・可視化 ●新たな機会の特定 ●アイデア創出の手法 	<ul style="list-style-type: none"> ●アイデア創出 一人5案
Day3 6月20日	<ul style="list-style-type: none"> ●アイデアの共有 ●アイデアの持続的実現環境の検討、可視化、ユーザープロファイリング ●ステークホルダー分析 ●顧客体験のシナリオマップの作成、共有 	<ul style="list-style-type: none"> ●顧客体験のシナリオマップ作成
Day4 7月4日	<ul style="list-style-type: none"> ●アイデア&シナリオマップの共有 ●アイデアの詳細化 ●プレゼンテーション準備 ●プレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ●振り返りレポートの作成

■最終アイデア

アイデア	リサーチ先	発見した機会
団地テンボス 団地をアートプレイスに	コープ九州、香椎浜小学校	地区内のコミュニケーションの必要性、団地そのものに付加価値をつけることでの魅力化
Save the 寺's 寺を外国人観光客の集客施設に	外国人居住者	福岡には満足しているがもっと人と交流したい 留学生の収入手段の創出
天国に一番近い団地 メモリアルパーク付集合住宅	団地内緊急連絡員、管理人	独居老人が増えたことによる不安、コミュニケーションが減少
まるで家族 人と人をつなぐ人材紹介	不動産会社、獣医	人に頼むほどではないが困っていることがある 家族のようなつながりを持ちたいときもある
団地カフェ&バー 女子大生がプロデュースする飲食施設	市民ランナー、地域の夜回り隊	健康はきっかけ、コミュニケーションを通して成長したい
WASHOKU 共に食を楽しむ場所づくり	団地居住者 (単身者、家族と同居の若年男性)	家族を演じることを楽しむ



④モジュール2「リーダーシップを発揮する」

受講生:31名

平成27年7月25日開講

講師:平山 猛(株式会社トライローク 代表取締役)

■授業内容

	対面授業	オンライン課題
Day1 7月4日	<ul style="list-style-type: none">●オリエンテーション●アイスブレイク●ファシリテーション概論●ファシリテーション4つのスキル ・場のデザイン・対人関係・構造化・合意形成 演習① 対人関係のペアワーク 演習② 構造化のグループワーク <ul style="list-style-type: none">●振り返り・全体共有	<ul style="list-style-type: none">●グラフィック演習 会議(会話)を聞いて、議論を可視化する 内容を抽出して書き出し、まとめる
Day2 7月25日	チームビルディング 演習「マシュマロチャレンジ」 <ul style="list-style-type: none">●講義 チームビルディング/リーダーシップ●プログラムデザイン 演習① グループワーク●講義 プログラムデザイン●プログラムデザイン 演習② グループワーク「防犯カメラの設置に関して」●振り返り・全体共有	<ul style="list-style-type: none">●プログラムデザインの作成 共通課題を読んで、プログラムデザインを作成する

	対面授業	オンライン課題
Day3 8月8日	<ul style="list-style-type: none"> ●問題解決 演習① タテヨコに掘り下げる 個人ワーク→グループ共有 ●振り返り・全体共有 ●ビジュアルミーティング 演習① 環境分析「九州の現状」 ●演習準備 Day4の演習の事前準備 ●振り返り・全体共有 	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムデザインとビジュアルミーティング 『九州での女性活躍を進めるには』をテーマに、テンプレート1種とプログラムデザインを作成する
Day4 8月29日	<ul style="list-style-type: none"> ●実践準備 宿題共有→実際の会議運営方法を決定する ●演習 実際に会議を運営する 実習40分、振り返り20分 ファシリテーションチーム、観察チーム、参加者チームに分かれて3セット（2会場で実施） ●振り返り・全体共有 	<ul style="list-style-type: none"> ●振り返りレポートの作成



⑤モジュール3「イノベーションを実践する」

受講生:28名

平成27年10月17日開講

講師:間間 理(九州産業大学 経営学部 産業経営学科 教授)

■授業内容

	対面授業	オンライン課題
Day1 10月17日	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマの設定・チームビルディング 持ち寄った関心領域、テーマを元にチーム編成、コアアイデアを共有する ※レゴブロックを使ったワーク ●担当講師とのマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> ●リサーチ ●アイデア修正
Day2 11月14日	<ul style="list-style-type: none"> ●リサーチの振り返り アイデア修正 ●ステークホルダー分析(ステークホルダーMapの活用) 仮説を立てる ●問題構造のあぶり出し システムシンキング(因果ループマップの作成) 	<ul style="list-style-type: none"> ●リサーチ ●プロトタイピング ●アイデア修正
Day3 12月19日	<ul style="list-style-type: none"> ●リサーチの振り返り ●アイデア修正 ●ビジネスモデルの組み方 (Business Model Canvas テンプレートの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ●アイデア修正 ●プロトタイピング ●プレゼンテーション準備
Day4 2月6日	<ul style="list-style-type: none"> ●成果発表会 各チームごとの発表、ポスターセッション形式によるフィードバックの実施 	

※1月9日、10日に1チーム30分の個別相談会を実施

■チームアドバイザー(担当教員)

中村 強	(福岡女子大学国際文理学部 食・健康学科 教授)
水元 芳	(福岡女子大学国際文理学部 食・健康学科 准教授)
小林 弘司	(福岡女子大学国際文理学部 食・健康学科 講師)
佐藤 剛史	(九州大学農学研究院 農業資源経済学部門 助教)
岡山 俊直	(福岡女子大学国際文理学部 環境科学科 准教授)
森田 健	(福岡女子大学国際文理学部 環境科学科 教授)
岩崎 慎平	(福岡女子大学国際文理学部 環境科学科 講師)
嶋田 大作	(福岡女子大学国際文理学部 環境科学科 講師)
野依 智子	(福岡女子大学国際文理学部 教授)
チョウドリ マハブブル アロム	(福岡女子大学国際文理学部 国際教養学科 教授)
パスマシリ ジャヤセーナ	(福岡女子大学国際文理学部 国際教養学科 准教授)
吹原 豊	(福岡女子大学国際文理学部 AJP(学術日本語プログラム)担当 講師)



■最終アイデア

プロジェクト名	内容
しいたけプロジェクト	里山の過少利用問題の解決。 海に「カキ小屋」があるなら、山に「しいたけ小屋」があってもいいじゃないか! くぬぎの有効利用としいたけ栽培による雇用と事業の創出。
ことりプロジェクト	人を繋ぐ、対話を学ぶ～「言葉を育てる」体験を広める。 障がい者の枠を超えて「社会との繋がり、一緒に生きていく」ために、施設の枠を越えた 《場》を設定したい。
企業における効果的な 障害者雇用推進のあり方 「インターンシップDEダイアログ」	企業の人事担当者が就労支援施設でインターンシップを行う。多様な職務の可能性を知り、障害特性を体感し、採用時のネットワークをつくり、障がい者との接し方を学ぶ。障害に対する偏見を自覚し、障がい者との接し方を学び、就労後の指導に活かす。
みそだま「100味 100景」 チームSAGA	佐賀県民が佐賀の魅力に気づいていない。佐賀県民にとっては、当たり前すぎて発信に至っていないことを、学生の行動力で広げる。佐賀の「よさ」を学生目線で発信していく。
だれかが だれかの 助っ人に マル勝スケッチ	地元で採れた野菜を使用し、高齢者の方に郷土料理「だぶ」を中心に夕食作りを行う。食事という場が高齢者や子育て世代に有意義なものになれば・・・また食品ロスを考えるきっかけを提供したい。
成長していくきっかけを プロデュースする団体 ～ナナイロ・カフェ～	講演会、セミナーなどの後に、プラスαのワークショップを提供し、自分自身の思いや考えを整理する場や多様な価値観にふれる場をつくる。成長するきっかけをプロデュース(企画・運営)する団体「ナナイロ・カフェ」の企画、運営。

プロジェクト名	内容
おやじ力から夫婦力へ	お互いを認め合い、夫婦が仲良く! 毎日楽しくイキイキ過ごせて社会が明るくなる!精神的に強くなり、前向きになる!次世代の育成につながり、少子化対策にもなる!
未来を描く多様な学びの場 i-Lab	足元の今宿・糸島で始める学びの場づくり工房 i-Lab。i は、imajuku と itoshima と I (私) から始める語り合い・学び合いの I。
「はた・らく・らぶ」 (体験学習を含むメンター育成プログラム)	メンター育成のため、自分たちの職場感覚も反映しながら、研修と体験学習を繰り返す通年型プログラムを策定。
寺フェス	クラウドファンディング式イベント「行動したいという欲求を実現させる」何かしたい、知りたい、変わりたいと思っている人に共感を持って行動できる場、背中を押すきっかけを提供。(モジュール1のプランを継続検討)
養護教諭の自己実現	大規模校に3人の養護教諭の配置を提言する。階層別の研修で知識や技術の習得のほか、自己実現を維持するための場や所属する学校を超えたネットワークを構築したい。
あなたがバトンプロジェクト	技能実習生がもっといきいき働ける仕組みづくりのお手伝い。技能実習生が日本にいる間に、職業人能力向上、ダイバーシティ教育、キャリアパスを示すなど、種まきを行いたい。
福岡ムスリムおもてなし隊 (ムスリム食の普及、理解促進)	The FUKUOKA Quest の開催。実施地域の市民と多様な国籍・文化・価値観の外国人ゲストが相互交流を図りながら、地元住民では気づきにくい地域の魅力を再発掘し発信する「まち歩き」ワークショップ。



⑥授業評価アンケート

	モジュール1	モジュール2	モジュール3
授業全般について 全体の満足度はいかがでしたか?	7.9※	7.0※	8.0※
毎回の授業のテーマ、内容は明確に示されていましたか?	3.7	4.1	4.4
教材の使い方(配布物、スライド等)の利用は適切でしたか?	4.0	4.0	4.4
授業の進行速度は適切でしたか?	4.1	4.0	3.9
理解しやすい話し方、説明でしたか?	4.4	4.0	4.4
授業の難易度は適切でしたか?	3.9	3.7	3.8
質問や相談ができるように配慮されていましたか?	4.2	4.1	4.3
授業の目的・意図は理解できましたか?	4.0	3.8	4.1
授業内容は理解・習得できましたか?	3.5	3.5	3.6
この授業に意欲的に取り組みましたか? (4回の対面授業を中心にお答えください。)	4.3	3.9	4.3
この授業に意欲的に取り組みましたか? (オンライン、プロジェクト上での課題への取り組みを中心にお答えください。)	4.0	3.5	4.2

注) ※10点満点 そのほかの設問は5点満点



- ・テーマを考えてチームを作るのに、レゴを使ったワークは新鮮だった。ワクワク感があり、お互いの共通性を見つけるいい手段だった。「もやもやを大切にしたい」「何度でも後戻りしていい」「メンバーシップ維持ではなく、取り組む問題を大切に」というメッセージがあったので、みんな自分に素直に、納得のいくかたちで進められた。その雰囲気があったから、私も気兼ねなく、二転三転しながらテーマにたどり着いた。
- ・受講者同志のチームワークや交流も盛んで、学ぶのが楽しかった。先生方も協力的に関わってください、全体を通して不安なく取り組めた。一方、プロジェクトを進めるにあたり、時間が無かった。できれば、早いうちにある程度のテーマを決め、対面授業と並行しながら取り組みたかった。
- ・プロジェクトに取り組む過程で、システムシンキング、ビジネスモデルキャンパスなど、今まで知らなかった手法を知ることができて勉強になりました。しかし、自分の問題として理解できるまでいかなかったのは残念です。もう少し対面授業があったらいいなとは思いました。
- ・毎回の授業において、今日は何をどこまで勉強するのかとてもわかりやすく、グループワークも何を行っているのかハッキリしていて良かったです。自分自身が時間内で習得出来ていたかという点については、到底、習得というランクまで行き着くことは出来ませんでした……。
(モジュール2の感想)
- ・ロジカルな思考をわかりやすく説明頂きました。視覚で正しく共有して、更に良りよくしていく方法の大切さを学びました。一方、なんのために、この手法で課題を行うのかを、あえて言われていないのだと思いますが、わかって取り組む方が、余計な悩みを持たず行動出来たと感じました。また、あえて目的を言わないのであれば、言わない理由を伝えて頂くだけでも、安心して課題に取り組めた様に感じます。
(モジュール1の感想)

(2) カリキュラム及び教育体制の確立

①産業界との「協議の場」

平成26年10月27日付けにて企画協議会、プログラム開発委員会が発足。

●平成27年7月16日 第1回プログラム開発委員会

開講報告、受講生の状況

モジュール1終了報告、課題共有、改善点協議

出席者：九州経済産業局 産業人材政策課長 大石 理氏

北九州市総務企画局 女性の輝く社会推進室 女性活躍推進担当課長 小笠原 圭子氏

福岡市市長室広報戦略室 広報戦略課長 大倉野 良子氏

福岡県新社会推進部男女共同参画推進課長 松本 恭子氏

株式会社ふくや ネットの目コミュニケーション室 守田 有理子氏

株式会社リ・パブリック 共同代表 田村 大氏(モジュール1担当講師)

株式会社トライログ 代表取締役 平山 猛氏(モジュール2担当講師)

福岡女子大学 副学長 人間環境学研究科長 森田 健(事業責任者)

学長特別補佐 松田 美幸(事業責任者)

女性学び直し支援室 岸 智子(プログラムコーディネーター) 安藤 萌衣

●平成27年10月30日 第2回プログラム開発委員会兼企画協議会

モジュール2修了報告、課題共有、改善点協議

平成28年度のプログラム改訂に関する協議を実施。

出席者：女性の活躍推進県会議 企画委員会委員長 川原 正孝氏(企画協議委員)

九州地域産業活性センター 企画部長 本田 和男氏

九州経済産業局 産業人材政策課長 大石 理氏



北九州市総務企画局 女性の輝く社会推進室 女性活躍推進担当課長 小笠原 圭子氏
福岡市市長室広報戦略室 広報戦略課長 大倉野 良子氏
福岡県新社会推進部男女共同参画推進課長 松本 恭子氏
TOTO株式会社 人財本部 人財部 ダイバーシティ推進室 菊竹 倫子氏
株式会社ふくや 網の目コミュニケーション室 守田 有理子氏
株式会社トライローク 代表取締役 平山 猛氏(モジュール2担当講師)
福岡女子大学地域連携センター長 田村 典明(企画協議委員)
福岡女子大学国際文理学部教授 野依 智子(プログラム開発委員)
福岡女子大学副学長 人間環境学研究科長 森田 健(事業責任者)
福岡女子大学学長特別補佐 松田 美幸(事業責任者)
女性学び直し支援室 岸 智子(プログラムコーディネーター) 安藤 萌衣

●平成28年3月1日 第3回プログラム開発委員会

モジュール3修了報告、修了認定協議

出席者：九州経済産業局 産業人材政策課長 大石 理氏

福岡市市長室広報戦略室 広報戦略課長 大倉野 良子氏
株式会社ふくや 網の目コミュニケーション室 守田 有理子氏
九州産業大学 経営学部 産業経営学科教授 間間 理氏(モジュール3担当講師)
福岡女子大学 副学長 人間環境学研究科長 森田 健(事業責任者)
福岡女子大学 学長特別補佐 松田 美幸(事業責任者)
福岡女子大学 副学長 国際文理学部教授 野依 智子(プログラム開発委員)
女性学び直し支援室 岸 智子(プログラムコーディネーター) 安藤 萌衣



②プログラム検討会議

モジュール担当教員とのプログラム検討会議を実施し、プログラムの改善、改良を行った。

日時	名称	内容
平成27年 5月 8日	モジュール3プログラム検討会議(第1回)	モジュール3プログラム内容、各日のタイムスケジュールの策定、検討、ゴール設定についての検討
平成27年 6月16日	モジュール2プログラム検討会議(第1回)	講座運営上の課題共有、モジュール2プログラム内容、各日のタイムスケジュールの策定、検討
平成27年 7月 8日	モジュール2プログラム検討会議(第2回)	各日のタイムスケジュール策定、ワークショップ演習の評価方法の検討
平成27年 8月 5日	モジュール3プログラム検討会議(第2回)	モジュール3各日のタイムスケジュールの策定、成果発表会、最終成果物の評価方法の検討
平成27年10月23日	全モジュール合同プログラム検討会議(第1回)	平成28年度プログラム改編に係る検討 オンライン学習、開講順序に関する協議
平成28年 1月18日	全モジュール合同プログラム検討会議(第2回)	平成28年度プログラム改編に係る具体的検討 各モジュールの連携に関する協議
平成28年 3月30日	モジュール1プログラム検討会議(平成28年度第1回)	平成28年度モジュール1プログラム内容、各日のタイムスケジュールの策定、最終評価に関する検討
平成28年 3月30日	モジュール2プログラム検討会議(平成28年度第1回)	平成28年度モジュール2プログラム内容、各日のタイムスケジュールの策定、連携先についての検討

モジュール担当講師、プログラム開発委員、事業責任者、事務局が出席。

(3) ファカルティ・デベロップメントの実施

① プログラム充実、改善を目的に全関係者でキックオフミーティング並びに 対面授業への参加・聴講を実施。

平成27年6月4日、6月8日に担当教員を対象にキックオフミーティングを実施。

モジュール3「イノベーションを実践する」での担当教員の関わりや指導方法、受講生が抱えるテーマ、問題意識等に関して情報交換を行い、実際に授業、オンライン学習上で発生する様々な受講生からの質問や依頼に応えられるように準備を行った。

また、オンライン学習へのアカウントを発行、教員は担当モジュール以外でも受講生の学習動向を把握できるようにした。
対面授業への参加、聴講を積極的に受け入れ、学内教職員への周知をはかった。

合わせて、担当教員の専門領域、研究分野を受講生に紹介する10分程度プレゼンテーションビデオを撮影、編集、制作。
モジュール3事前課題として受講生は開講前に視聴し、自身のプロジェクトテーマ設定の際の参考情報、担当教員とのマッチングの参考資料として活用した。

② 先行事例、プログラム実施にあたっての事例調査

- 平成27年7月24日 京都大学大学生研究フォーラム2015 チュートリアルセッション参加
大学生のキャリアと学びに関する最新の研究、実践動向を調査。エンゲージメント学ワークショップに参加。
調査者：学び直し支援室 プログラムコーディネーター 岸 智子
- 平成27年11月29日 熊本大学公開講座インストラクショナルデザイン入門編参加
教育・研修をより効果的・効率的・魅力的にするためのインストラクショナルデザインを学ぶ1日講座に参加。
調査者：学び直し支援室 プログラムコーディネーター 岸 智子

- 平成27年12月26日 アクティブラーニングファシリテーター養成講座入門編参加
学校教育関係者を対象としたアクティブラーニングを題材とした講座に参加。日本ファシリテーション協会主催。
調査者：学び直し支援室 プログラムコーディネーター 岸 智子
- 平成28年2月8日～10日 一般社団法人デザイン思考研究所 デザイン思考マスタークラス 受講
イノベーションのための手法「デザイン思考」を学び、社会に新たな価値を提供するイノベーター養成のための集中プログラム。
調査者：学び直し支援室 プログラムコーディネーター 岸 智子
- 平成28年3月10日 関西大学公開FDワークショップ「社会人教育における学び直しとその授業設計を考える」参加
調査者：学び直し支援室 プログラムコーディネーター 岸 智子
- 平成28年3月23日～27日 VIAプログラム(デザイン思考)の実施内容視察および関連情報の収集と意見交換
スタンフォード大学内に拠点を構える非営利団体VIA (Volunteers in Asia)を訪問
調査者：副学長 人間環境学研究科長 森田 健(事業責任者)
国際文理学部 環境科学科講師 岩崎 慎平(モジュール3担当教員)



(4)プログラムの周知・広報

①学外に対する本プログラムの開講周知と履修生募集を目的に、各種企業人事担当者に対するプログラム説明を行う。

●平成28年1月25日 講座説明会を開催

参加者：6名 企業・団体の人事、人材育成担当者、女性活躍推進担当者

内 容：平成28年度プログラム説明、平成27年度受講生からの成果発表、感想、質疑応答

悪天候のため、キャンセルが相次いだが、実際に受講している受講生からの講座の感想や学びの成果に対する発表は、プログラムの効果を示すものとなった。

②募集に関する情報発信

●講座案内パンフレットの制作

平成27年12月18日納品 1000部

県内男女共同参画センター、NPO団体、起業家支援団体が主催する各種セミナー（女性起業家セミナー）で配布

平成28年1月15日納品 1000部

県内男女共同参画センター、個別説明会での配布、女性向け各種セミナー（女性の活躍推進県会議セミナー、ふくおかはたらき方NEXT、みらいねっとフォーラム、ふくおか女性いきいき塾成果報告会など）での配布

平成28年3月15日納品 200部

個別説明、企業人事担当者への配布（送付）

●ホームページの制作(更新)

平成27年12月24日 トップページ 講座概要ページ 募集要項ページの公開

平成28年1月15日 BP認定講座バナー追加

●説明会イベントの開催

計4回開催 のべ参加者55名

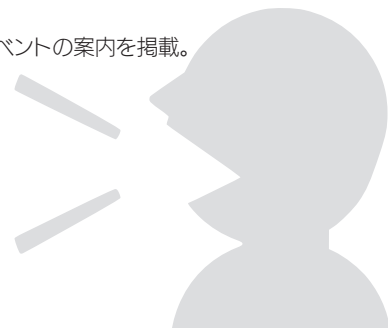
日時	場所	ゲスト・内容	参加者
平成28年1月29日	福岡市スタートアップカフェ	白梅 英子氏(ル・レーブ代表)	13名
平成28年2月16日	福岡市スタートアップカフェ	伴 克子氏(Fukuoka 大人塾主宰)	15名
平成28年2月20日	福岡女子大学	ファシリテーションミニワークショップ (講師:モジュール2担当 平山 猛氏)	20名
平成28年3月 2日	福岡市スタートアップカフェ	森山 暎子氏 (有限会社スタジオパラディソ、一般社団法人10分ランチフィットネス代表)	7名

●タウン誌への掲載

北九州、福岡を中心に145,000部を発行する働く女性を対象としたタウン誌に講座紹介、説明会イベントの案内を掲載。

●Facebookページの運営

平成28年3月末時点 ページへの「いいね」登録数 490件



(5) 出願状況(平成28年度)

定員30名に対して、第1期、第2期の2回に分けて募集を行った。

応募書類：願書

小論文 「本プログラム修了後にあなたが組織や社会で取り組みたいこと」 様式不問 1,000字程度
(企業派遣の場合のみ) 申込確認書

選考方法：書類選考、面接(出願者全員)

	出願期間	面接	合格発表	出願数	合格数
第1期	平成28年2月29日～3月13日	3月19日	3月23日	12	12
第2期	平成28年3月21日～4月 3日	4月 9日	4月11日	14	13

うち企業派遣9名(8社)



福岡女子大学

高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム

イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム

協力 原田 恵(株式会社リ・パブリック)

岡橋 毅(株式会社リ・パブリック)

加留部 貴行(特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 フェロー)

鷺尾 依子

太田 由美子

園田 博美

高見 真智子

森山 暎子

山村 より子

発行日 平成28年5月

発行 公立大学法人福岡女子大学 女性学び直し支援室



福岡女子大学



福岡女子大学



公立大学法人

福岡女子大学

FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY